

◇編集後記◇

本号の JOH 誌は、遺伝子レベルから大規模疫学研究にまでバラエティに富む 7 本のオリジナルペーパー、3 つのケーススタディ、3 つのフィールドスタディから構成されています。タイ、台湾、韓国、トルコ、イランとアジアからの投稿が目立っております。アジアからも優れた原著論文が寄せられるようになりました。ケーススタディも示唆に富む症例が集まっています。産業衛生学雑誌にも事象関連電位を指標とした精神疲労把握の試みや、局所排気フードの効率化に資するデータが示されています。重要な健康問題として注目されている介護老人福祉施設における筋骨格系障害に関する調査報告もなされています。

この編集後記では、うれしいご報告を二点させていただけます。ひとつは、昨年 1.5 まで上昇した JOH 誌のインパクトファクターが、本年も 1.8 へ上昇いたしました。これもひとえに会員の皆様の本誌の積極的な活用と、編集作業へのご協力の賜物と感謝申し上げます。編集委員会一同、この勢いをさらに持続するべく努力を惜しまぬ所存です。

もうひとつは、産業衛生学雑誌の前身である「産業医

学」の、第 1 巻（1959 年；昭和 34 年）から第 25 巻（1983 年；昭和 58 年）までの掲載論文すべてが、科学技術振興機構の電子アーカイブ事業の対象として選定されました。今年度中に電子ファイル化されて、国立情報学研究所電子図書館のホームページよりダウンロードが可能になる運びです。先輩方が残した貴重な財産が、また広く活用されることとなります。もとより本誌は良質な情報を提供してきておりますが、日本産業衛生学会の学術および社会への貢献が改めて評価されたものとして、たいへん喜ばしく思っております。

インパクトファクターの増加と電子投稿システムの導入に伴い、投稿数も増加を続けております。質を落とさず、タイムリーな情報発信を行うべく議論を重ねております。査読をお願いしている先生方にはたいへんなご負担をおかけしていますが、変わらずご支援のほどをお願いいたします。

本誌は、産業保健・医学・看護分野の情報発信媒介として発展しています。会員の皆様の積極的なご貢献を期待いたします。

（堤 明純）

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：竹下達也（和歌山医大）

副委員長：圓藤陽子（東京労災病院）、武林 亨（慶應大）、堤 明純（産業医大）、

本橋 豊（秋田大）、森 満（札幌医大）

荒木田美香子（大阪大）、有澤孝吉（徳島大）、市場正良（佐賀大）、掛本知里（東京女子医大）、上島通浩（名古屋大）、車谷典男（奈良医大）、甲田茂樹（独法労働安全衛生総研）、河野公一（大阪医大）、西條清史（金沢大）、榊原久孝（名古屋大）、澤田晋一（独法労働安全衛生総研）、塩飽邦憲（島根大）、笠島 茂（国立保健医療科学院）、埜田和史（滋賀医大）、谷川 武（筑波大）、錦戸典子（東海大）、橋本英樹（東京大）、濱田篤郎（海外勤務健康管理センター）、保利 一（産業医大）、森河裕子（金沢医大）、森田 学（北海道大）、森本泰夫（産業医大）、八幡勝也（産業医大）、若林一郎（兵庫医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1 丁目 29 番地 8 公衆衛生ビル 4 階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番